

運営推進会議開催報告書

下記事業所について、次のとおり運営推進会議を開催したことを報告します。

1. 基本情報

事業所名	都筑区医師会ナーシングホーム		
サービス種別	看護小規模多機能型居宅介護		
所在地	横浜市都筑区牛久保西1-20-21		
担当者	石濱 千秋	連絡先	045-913-6321
運営法人	一般社団法人 横浜市都筑区医師会		

2. 開催日時・場所

日時	令和 8年 7月 10日 13時30分 ～14時	場所	医師会館理事長室(オンラインと併用)
----	--------------------------	----	--------------------

3. 出席者

氏名	分野	備考(所属・従事経験など)
宮本 毅 (欠)	地域住民の代表者	中川連合町内会 会長
伊勢田 義紀 (欠)	当該サービスに知見を有する者	中川地域ケアプラザ 所長
堀元 隆司 (欠)	当該サービスに知見を有する者	堀元歯科医院 院長
小林 雅子 (欠)	当該サービスに知見を有する者	小林クリニック 副院長
片山 徹	当該サービスに知見を有する者	TOWN訪問診療所横浜 院長
笠羽 一博	市の職員又は地域包括支援センターの職員	都筑区役所 高齢者支援課係長
深澤 立 (欠)	当該サービスに知見を有する者	都筑区医師会代表理事
宮島 佳代	事業所職員	統括管理者
石濱 千秋	事業所職員	管理者
佐藤 恵理	事業所職員	看護師
箕輪 善果	事業所職員	看護師
前田 仁美	事業所職員	介護職員
羽後 みゆき	事業所職員	介護職員
後藤 瑞佳	事業所職員	事務
加藤 萌子	事業所職員	事務

4. 活動状況報告

別紙(様式2～4)のとおり

(裏面あり)

5. 活動状況に関する評価・意見・要望

- 1.実績報告
- 2.身体拘束・虐待防止検討委員会報告
- 3.感染症委員会
- 4.インシデント、苦情等報告
- 5.活動報告
- 6.意見交換
- 7.お知らせ

6. 評価・意見・要望に対する考え・取組

1～3について、特になし
4について:クリニックから送られていた、診療レポートに記載されていた褥瘡処置についての内容を、利用しているソフトウェアの伝言に掲載していたものの、以前の処置をしていた。処置の内容を正確に実施するために、人体図に記載することになっていたが、していなかった。変更点について、伝言ツールを使用し、通達することと、変更点の掲示を変更時点ですぐに行うことを今後の対策とした。

7. 地域からの情報提供

特にありません

8. その他特記事項

※ 会議は原則事業所内で行ってください。
やむを得ず他の場所で開催する場合、必要に応じて事業所内の見学を行ってください。

活動状況報告書(看護小規模多機能型居宅介護)

1. 基本情報

事業所名	都筑区医師会ナーシングホーム		
所在地	横浜市都筑区牛久保西1-20-21		
担当者	石濱 千秋	連絡先	045-913-6321
運営法人	一般社団法人 横浜市都筑区医師会		

2. 登録者の状況 令和 8年 6月

登録者数(6月 30日現在)		女性 14名	男性 4名	計 18名				
要介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請・区変中
	0 名	0 名	0名	3名	1名	3名	11名	0名

3. サービス提供回数(会議開催の前月分)

登録者 (匿名)	通い	泊まり	訪問	備考(入所日、退所日など)
ア	7	0	14	2 (訪問看護)
イ	23	0	0	1
ウ	18	0	35	1
エ	10	7	5	0
オ	21	19	10	56
カ	19	14	4	12
キ	6	2	7	1
ク	22	18	9	1
ケ	24	22	6	11
コ	5	0	28	10
サ	9	2	14	6
シ	21	16	0	6
ス	14	5	18	6
セ	11	2	18	19
ソ	14	4	35	0
タ	4	4	1	7
チ	12	4	29	0
ツ	17	12	24	12
テ				
ト				
ナ				
ニ				
ヌ				
ネ				
ノ				
ハ				
ヒ				
フ				平均要介護度 4.22
ヘ				
平均	14.28	7.28	14.28	

(裏面あり)

4. 運営方針

事業所の目標	1. 理念の具現化と「ケアの質の標準化」 ・想いをカタチにし、誰でも質の高いケアが提供できる組織へ 2. アセスメント力の向上と「多職種連携」の深化 ・根拠のある記録と対話で、24時間の生活を支える 3. 地域と歩む「終末期支援」のリードする存在 ・深い傾聴と地域連携で、最期まで支え切る体制の構築
目標に向けた 具体的取組	1-1:「理念振り返り」のルーティン化⇒全体研修などの時、理念について振り返る 1-2: 事例の振り返り 2-1: スマイルウェブの「入カルール」の標準化⇒入力文言の共有 2-2: カンファレンス/事例検討の継続 3-1: カンファレンス/事例検討を通して、深い傾聴のスキルを磨く 3-2: 地域連携の「顔が見える化」⇒看取りの事例や在宅以降の成功例を積極的にプレゼンする

5. 活動報告

【5. 6月活動報告】

- * 運営推進会議(5/8)
- * 管理者会議(5/11, 6/8)
- * 運営会議・身体拘束適正化委員会・虐待防止検討委員会・感染対策委員会・喀痰吸引会議(5/28、6/25)
- * 法令遵守・職業倫理・プライバシー保護と個人情報保護 研修(5/28)
- * インシデント・アクシデント・リスクマネジメント研修(6/25)
- * 毎週木曜日「楽しく過ごそうかい」(回想法を中心に)
- * 事業所合同カンファレンス(毎週水曜日)
- * 介護職カンファレンス(毎週水曜日)
- * 看護職カンファレンス(毎週金曜日)

6. 事故・ヒヤリハット報告

内容	皮膚科の往診により、処置内容が変更。連絡を受け、連絡ツールに共有したものの、現場ではなぜか以前の処置となっていた。 クリニックから「処置内容が変わっていないか」と電話問い合わせがありミスに気づく。 診療レポートを確認し、指示変更の事実を再把握する。 原因として、連絡ツールへの入力のみで周知・確認が不十分だったため、現場で変更前の状態(アクセルAg貼付)を確認した際に処置変更を失念し、旧処置を継続してしまった。
改善策	1. 処置変更時はツール記載に加え、申し送りや直接連絡によるWチェックを徹底する。 2. 現場の処置材料保管場所に「指示変更あり」のアラートシートを配置し、視覚的な注意喚起を行う。 3. 処置前には「前回の状態」に頼らず、必ず最新の指示書を確認する手順を徹底する。

7. 地域への情報提供

令和8年8月22日(土)15:00～16:30 ナーシングホームにて「エンディングノートより、手前の話」ワークショップ開催

8. その他特記事項

特になし